

授業科目名： 教職概論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森 透
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教職の意義等に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 教職の意義及び教員の役割 ・ 教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む。） ・ 進路選択に資する各種の機会の提供等		
授業の到達目標及びテーマ 教職とは何か、教師の専門性と何か、教師の仕事の総体とは何か、など、教師・教職をめぐる様々なことを総体として学ぶ。「学び続ける教師像」をテーマとして、学生自身も「学び続ける学生像」を追究したい。			
授業の概要 現代の教師は「学び続ける教師像」として生涯学ぶ存在としてのあり方が提起されている。教師の仕事として、授業や生徒指導、学級経営、部活動指導、保護者対応など、多くの役割が存在するが、基本的には教職への熱意と意欲に満ちた存在として、児童・生徒への日々の教育実践に教師愛をもって「アクティブ・ラーニング」を行うことが求められている。また、今日の学校をめぐる様々な課題には、「チーム学校」として教師が協働して取り組むことも強く求められている。以上の教師をめぐる様々な課題について学ぶとともに、具体的な実践事例をもとに教師の在り方について考える。			
授業計画 第1回：教師の日常世界へ（専門家としての教師／教職という仕事の性格／情動的実践としての教職） 第2回：授業をつくる（授業の構成／授業のデザイン／授業デザインを支える教師の知識と思考） 第3回：授業から学ぶ（評価する主体としての教師／ともに学び続ける教師） 第4回：カリキュラムをデザインする（「カリキュラム」概念／学びのビジョンとその実践／学びのデザイン／開発と評価） 第5回：子どもを育む（子どもの心に寄り添う／子どもの言葉を受け取る／教師—子ども関係が陥りやすい落とし穴／守りの器をつくる） 第6回：生涯を教師として生きる（教育実習から新任の教師へ／教師としてのアイデンティティの模索／中年期の危機／ベテラン教師として） 第7回：同僚とともに学校を創る（学校での授業の探究／学校における同僚性／教師文化を形成するもの） 第8回：教職の専門性（教職の専門性とは／教職に対する国際的認識／教師の養成、成長／日本における教職の専門性開発に見られる特徴） 第9回：時代の中の教師（近代学校成立以前の教師／日本における教育の風景の転換／定型的教師像の誕生／植民地ならびにファシズム期の教師像／戦後の教師像） 第10回：教師の仕事とジェンダー（教職におけるジェンダー／歴史の中の女性教師／教師の仕事と母親業） 第11回：教育改革と教師の未来（転換期の学校／改革の推移／教師の使命／未来への希望） 第12回：教師研究へのアプローチ（教師研究の広がり／教師についての情報を収集する／教師をめざして／教職の今を探る／教職関連法規） 第13回：具体的教師へのインタビュー① 第14回：具体的教師へのインタビュー② 第15回：全体のまとめ 定期試験　＜最終課題レポートの提出に替える＞			

テキスト

秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門』有斐閣、2015年改訂版

参考書・参考資料等

- * 福井大学大学院教育学研究科学校改革実践研究コース編『看護専門職の実践力を育てる実習過程の事例研究—看護教育の省察的実践研究のアプローチ』（学校改革実践研究年報 2006 N01）2007年3月
- * 田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』有斐閣、2011年
- * 佐藤学『専門家として教師を育てる—教師教育改革のグランドデザイナー』岩波書店、2015年

学生に対する評価

①レポートの提出状況 40%、②グループ討論への参加状況 40%、③最終課題レポートの提出状況 40%、以上の3点を総合的に判断する。

授業科目名： 教育原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 森 透
		担当形態：単独	
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業の到達目標及びテーマ 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶ。具体的には、近現代の日本における教育の理念および歴史・思想について学ぶとともに、現代における教育のあり方や役割・使命について学ぶ。			
授業の概要 教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想について学ぶとともに、現代の学校が抱える諸問題、たとえば、いじめ・不登校・高校中退・教師の体罰・校則と管理・保護者の対応などの諸問題について、具体的な事例を通して学び、これからの教育のあり方について考える。			
授業計画 第1回：西洋教育思想の源流（古代・中世）ーレトリックと教育 第2回：哲学と教育（ソクラテス・プラトン・アリストテレス） 第3回：キリスト教と教育（アウグスティヌス・トマスアクイナス・ルター） 第4回：教育における近代ールネッサンスとヒューマニズム 第5回：コメニウス 第6回：ロック 第7回：ルソー 第8回：古典的人間形成論ーシラーからニーチェまで 第9回：学校教育を支える思想ーペスタロッチとフレーベル 第10回：ヘルバルトから新教育へ 第11回：日本の教育思想ー近世日本の教育思想と＜近代＞ 第12回：福沢諭吉 第13回：デュルケームと教育科学 第14回：デューイと新教育 第15回：新教育以後の教育思想（全体のまとめ）			
テキスト 今井康雄編『教育思想史』有斐閣、2009 年 田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』有斐閣、2011 年			
参考書・参考資料等 秋田喜代美・佐藤学『新しい時代の教職入門』有斐閣、2006 年 佐藤学『専門家として教師を育てるー教師教育改革のグランドデザイナー』岩波書店、2015 年			
学生に対する評価 ①レポートの提出状況 30%、②グループ討論への参加状況 30%、③最終課題レポートの提出状況 40%、以上の 3 点を総合的に判断する。			

授業科目名： 生涯発達心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 青井 利哉
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 近年、生活や教育における様々な人間の発達に関わる問題が多くなってきている。人間の 生涯にわたる精神発達を学習する必要性について学び、その後、子どもから成人になるまで の変化・発達について学習する。			
授業の概要 人間は胎生期から出生を経て成長と発達を続け死へと向かう。人の一生を「生涯発達」の 視点で捉え乳児期、幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期の心理的発達について学習す る。特に幼児、児童および生徒の心身の発達の理解、学習、動機づけ、児童・生徒が抱える諸問 題、障害のある子どもの心身の発達とその支援の方法等について理解を深める。			
授業計画 第1回：人間発達の概要と発達の概念について説明できる。 発達、成長、成熟、学習、遺伝、環境、輻輳説、発達理論 第2回：エリクソンの発達理論について説明できる。 自我と自己の発達、ライフサイクル、心理社会的危機状況 第3回：ピアジェの認知発達論について説明できる。 思考の発達、感覚運動段階、前操作的段階（象徴的思考直感的思考）、操作的段階（具 体的操作、形式的操作） 第4回：学習の原理とメカニズムについて説明できる。 学習が成立する過程を説明する代表的な理論（行動理論、認知理論） 第5回：学習意欲の基礎について説明できる。 動機づけ、学習性無力感 第6回：概念の発達と学習について説明できる。 幼児期までの日常的概念の発達、児童期における科学的概念の学習過程 第7回：乳児期の発達について説明できる。 身体発育、運動機能の発達、認知機能や対人関係の発達、愛着関係の形成 第8回：幼児期の発達について説明できる。 言語の獲得、遊びと学習レディネスの形成、自己・他者認知の発達 第9回：児童期の発達について説明できる。 論理的思考、メタ認識の芽生え、仲間関係、道徳性の発達 第10回：児童期に抱える諸問題について説明できる。 いじめ、不登校、メンタルヘルス 第11回：青年期の発達について説明できる。 親子関係・友人関係、親からの心理的自立、自我同一性の確立 第12回：成人期・老年期の発達について説明できる。 職業生活、家族生活、親となること、エイジングとパーソナリティ、死への対応 第13回：知的発達に遅れが見られる幼児、児童および生徒について説明できる。 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達、知的障害の特徴（記憶、学習の特徴） 第14回：発達に偏りが見られる幼児、児童および生徒について説明できる。 障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達、学習障害、自閉症スペクトラム障害			

第 15 回：障害のある幼児、児童および生徒の支援の方法について説明できる。
知能検査の解釈について、社会性をはぐくむ支援の方法、障害特性に応じた個別支援

テキスト
指定しない

参考書・参考資料等
・岩崎・花熊・吉松：人間発達学、医学書院、2010
・上田礼子：生涯人間発達学，三輪書店，2012
・市川伸一：学習と教育の心理学 増補版，岩波書店,2011

学生に対する評価
定期試験（筆記試験 100%）

授業科目名： 学校経営論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 篠原岳司
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育の基礎理論に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項		
授業の到達目標及びテーマ 教育と密接にかかわる学校の歴史・制度を学びながら、現在の学校に求められる役割や意義を考え、様々な観点から、教職の専門性についても考察することができる。			
授業の概要 この授業では、将来どのような教師になりたいのか、あるいはなるべきなのかを考える前提として、まず、教育や学校組織を成り立たせている歴史や制度的基盤があることを確認する。そして、そうした基盤が現在の学校が存在する意味や、教師個々のライフワーク、かれらが抱きがちな価値観や信念について考察できるよう意図している。最終的には、学校経営という営みを、教師という視点のみならず、子どもの幸せを生み出せる「学校づくり」という観点から捉え、考察したいと考えている。			
授業計画 第1回 ニッポンの学校（1）歴史的な成り立ち 第2回 ニッポンの学校（2）学校空間と求められる身体や言葉 第3回 ニッポンの学校（3）子どもが学校に通う意味とは 第4回 学級を経営する（1）良いクラスはどうしたら生まれるのだろうか。 第5回 学級を経営する（2）環境・感情・コミュニケーションについて 第6回 授業とは何か（1）小学校での実践事例の分析から 第7回 授業とは何か（2）中学校での実践事例の分析から 第8回 感情労働と教師（1）愛情のあり方と体罰論から 第9回 感情労働と教師（2）言語と非言語コミュニケーションに迫る 第10回 学校経営とリーダーシップ（1）開かれた学校とは何か 第11回 学校経営とリーダーシップ（2）「教師の仕事の評価する」とは？ 第12回 「先生」と呼ばれない人たちの存在の役割について考える 第13回 これからの学校の可能性（1）「格差」とどう向き合うか 第14回 これからの学校の可能性（2）子どもの幸せを生み出す学校経営とは何か 第15回 まとめ 定期試験			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 特になし			
学生に対する評価 ① 授業でのディスカッションやグループワークへの積極的な参加姿勢 （50点） ② テーマに沿ったミニレポートと学期末試験 （50点）			

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 寺岡 英男
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 教育課程の意義及び編成の方法		
授業の到達目標及びテーマ 教育課程はカリキュラムともいわれ、「学びの履歴」を意味する。教育課程の意義や歴史的変遷を理解し、学校教育の中で、児童生徒にいつの時期にどのような目的や方法で何を学ばせるのかといった教育計画や、事後の評価など教育課程に関する基本的な知識について理解する。			
授業の概要 教育課程の意義や歴史、学習指導要領の変遷、日本の現代における教育課程および関連する課題や行なわれてきた教育改革等について、具体的な事例を通して理解を深める。			
授業計画 第1回：教育課程の概念、意義 第2回：教育課程の歴史1（戦前） 第3回：教育課程の歴史2（戦後 1960年代まで） 第4回：教育課程の歴史3（戦後 現在まで） 第5回：戦後日本における教育課程 理科1（学習指導要領・教科書の変遷） 第6回：戦後日本における教育課程 理科2（民間の教科研究・仮説実験授業等の展開） 第7回：戦後日本における教育課程 算数・数学1（学習指導要領・教科書の変遷） 第8回：戦後日本における教育課程 算数・数学2（民間の教科研究・数学教育協議会の展開） 第9回：小括とグループ討議 第10回：世界のカリキュラム改革の動向1 科学教育 第11回：世界のカリキュラム改革の動向2 数学教育 第12回：OECD/PISA1 従来の国際調査との違い、リテラシーと調査結果の考察 第13回：OECD/PISA2 OECD/PISAの提起をどうとらえるか 第14回：小括とグループ討議 第15回：発表と交流 定期試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 その都度指定、配布する			
学生に対する評価 通常の小レポート(50%)と最終レポート(50%)で評価する 評価基準:教育課程の理解と具体的な展開の理解がなされたかどうか、発表とレポートの内容より評価する。			

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 丸山 剛史 担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程及び指導法に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ （１）特別活動は、学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動、クラブ活動、学校行事から構成されていることがわかる。 （２）特別活動では、学校・学級における児童・生徒の共同の生活の向上や理想・利益の追求に取り組み、人権・人格を尊重し、統治的能力を形成し、広範多様な交友関係を育成・拡大し、市民社会を視野に入れた道徳性・文化性を発達させることが重要であることがわかる。 （３）特別活動の指導にあたっては、①教師が直接に組織的・集団的活動を指導する、②児童・生徒の自治的活動を指導する、③個別の相談・指導、④子ども相互の交友・交際の指導を組み合わせる指導を行うことがわかる。 （４）特別活動の指導計画・学習指導案を適切に作成することができる。			
授業の概要 特別活動の意義、歴史的背景、現状、論点について講義を行う。			
授業計画 （１）ガイダンス：授業概要の説明 （２）特別活動の内容と構成 （３）特別活動の歴史（第二次大戦前） （４）特別活動の歴史（第二次大戦後） （５）学級・ホームルーム活動の理論 （６）学級・ホームルーム活動の実践 （７）生徒会活動の理論 （８）生徒会活動の実践 （９）学校行事の理論と実践（Ⅰ）：儀式的行事 （10）学校行事の理論と実践（Ⅱ）：文化的行事 （11）学校行事の理論と実践（Ⅲ）：健康安全・体育的行事 （12）学校行事の理論と実践（Ⅳ）：旅行・宿泊的行事 （13）学校行事の理論と実践（Ⅴ）：勤労生産・奉仕的行事 （14）指導計画・学習指導案・模擬授業の検討 （15）まとめ：特別活動の教育的意義			
定期試験			
テキスト 林尚示編『特別活動』培風館（2012 年）			
参考書・参考資料等 日本特別活動学会監修『新訂キーワードで拓く新しい特別活動』東洋館出版社（2010 年）、文部科学省『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』海文堂出版（2009 年）			
学生に対する評価 成績評価は、定期試験（100%）の結果にもとづいて行います。試験における採点においては、①要点が的確に理解されているか、②授業の内容に関して学習が行われたか、をみます。			

授業科目名： 道徳教育指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 吉田 武男
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・道徳及び特別活動に関する内容		
授業の到達目標及びテーマ 教員に必要な道徳教育に関する基礎的知識を習得するとともに、「特別の教科 道徳」における多様な指導法と評価法についての理解を深める。			
授業の概要 まず、道徳教育の意義とともに、日本の道徳教育の変遷とともに世界の道徳教育の特徴について解説する。次に、道徳教育の有力な諸理論について概説する。さらに、日本の道徳授業の諸相を確認したうえで、質の高い多様な指導法と評価法について広い視野から多面的・多角的に考察する。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：授業の進め方と授業内容の概要を説明する。 第2回：道徳と道徳教育：道徳教育に関する基本的知識について解説する。 第3回：道徳教育の変遷 1：明治期の道徳教育について説明する。 第4回：道徳教育の変遷 2：大正期、昭和前期、第二次世界大戦直後の道徳教育について説明する。 第5回：道徳教育の変遷 3：戦後の道徳教育について、学習指導要領の変遷を手がかりに説明する。 第6回：道徳教育の変遷 4：最近の心理主義に偏った道徳教育の問題状況を探る。 第7回：諸外国の道徳教育 1：欧米諸国を中心に、諸外国の道徳教育について説明する。 第8回：諸外国の道徳教育 2：東アジア諸国も加えて、諸外国の道徳教育について説明する。 第9回：諸外国の道徳教育 3：デュルケム、ピアジェ等の理論について説明する。 第10回：諸外国の道徳教育 4：コールバーグ等の理論について説明し、その模擬授業を行う。 第11回：日本の道徳教育の基準：基本方針、目的、内容、指導計画、学習指導案等について説明する。 第12回：日本の道徳授業の諸相：道徳授業の現状と問題点、特に評価法の課題について探る。 第13回：日本の道徳教育の課題と展望 1：最近の道徳教育改革と先進的な実践の試みを解説する。 第14回：日本の道徳教育の課題と展望 2：新しい時代の日本発の道徳教育について考察する。 第15回：総復習（試験を含む）			
テキスト 吉田武男『心の教育からの脱却と道徳教育』学文社			
参考書・参考資料等 文部科学省『中学校学習指導要領解説 道徳編』2008年、同『小学校学習指導要領解説 道徳編』2008年 その他については、授業の際に必要なに応じて紹介する。			
学生に対する評価 試験：40% 15回目の授業時間中に試験を実施し、基本的知識の理解度を確認するとともに個々人の道徳教育に関する見解を問う。 レポート：0% 原則として実施しない。 平常点評価：60% 授業内容の理解度と、そこでの授業に取り組む姿勢や態度を評価するために、毎回、出席確認を兼ねたカードを配布し、授業時間の最後に何らかの質問・意見・疑問等を記入してもらう。			

授業科目名： 教育方法論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 古市 直樹
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（教育課程に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 「教育実践」や「授業」とはどのようなことか等、これらの意義、歴史的変遷を理解し、児童・生徒が意欲的・主体的に取り組むことのできる授業を実践するために必要な教育の方法と技術について学習する。特に現代はコンピューターなどの情報機器が発達しているので、これらの情報機器の有効な活用法についても学ぶ。			
授業の概要 学校教育における授業をいかに行うのか、授業の中で児童・生徒は何を学んでいるのか、教師は授業で何を教えるべきなのか等について、具体的な授業の事例をもと考える。			
授業計画 第1回：概要の説明 第2回：「教師の日常世界へ ― 教職という仕事について―」 第3回：「授業をつくる ― 学びを中心とする授業の創造―」 第4回：「授業をつくる ― 教室におけるICTに基づく学び―」 第5回：「授業から学ぶ ― 聴き合う関係から学び合う関係へ―」 第6回：「授業から学ぶ ― 探究し合う授業の創造―」 第7回：「授業を哲学する ― 教えと学び―」 第8回：「授業を哲学する ― 人間形成論―」 第9回：「授業を科学する ― 実証的な授業研究―」 第10回：「ICT機器を用いた小集団学習の方法」 第11回：「ICT機器を用いた授業の方法」 第12回：「教育方法を構成する」 第13回：「教育方法を評価する」 第14回：「教師自身による授業研究 ― レッスン・スタディ―」 第15回：まとめ 定期試験			
テキスト 特に指定しない。			
参考書・参考資料等 佐藤学 2010. 教育の方法（放送大学叢書）左右社.			
学生に対する評価 教育方法に関してどれだけ理解しどれだけ考察したかを、主に、授業で用いるワークシートの記述内容をもとに評価する（90%）。さらに、授業中の議論への参加も評価対象とする（10%）。			

授業科目名： 生徒指導論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 加藤 正弘
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（生徒指導及び教育相談に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・ 生徒指導の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 学校教育の現場で起こっている諸問題、特にいじめ・不登校・非行・問題行動などについて、具体的な事例を通して理解するとともに、指導に必要な基本的な知識や理論、専門的な方法について学ぶ。			
授業の概要 生徒指導の意義や方法を理解する。さらに、生徒指導の実際は個々の発達過程や生活状況など学校教育での学習以外の領域に及ぶこともあるため、個々の児童・生徒を全人的に理解し、健全な生き方ができるよう導く姿勢が重要であることを理解する。			
授業計画 第1回：生徒指導とは何か① ～その意義と方法 自分が受けた教育から振り返る～ 第2回：生徒指導とは何か② ラウンドテーブル「Q&A 自分が教師だったらこうするⅠ」 第3回：生徒指導とは何か③ ～保健室経営が学校荒廃につながる事例から生徒指導を考える～ 第4回：生徒指導とは何か④ ラウンドテーブル「Q&A 自分が教師だったらこうするⅡ」 第5回：生徒指導とは何か⑤ ～至民中学校と丸岡南中学校の比較から生徒指導を考える～ 第6回：生徒指導とは何か⑥ ラウンドテーブル「学校の先生と自動車学校の先生はどこが違うのか」 第7回：生徒指導とは何か⑦ ～生活指導と生徒指導との違いを考える～ 第8回：生徒指導とは何か⑧ ラウンドテーブル「Q&A 自分が校長だったらこうする」 第9回：生徒指導とは何か⑨ ～自主性、自立性を育む学校行事、集会活動を考える～ 第10回：特別活動と生徒指導 第11回：生徒指導の概念① ～欧米、東アジアと日本との教育比較～ 第12回：生徒指導の概念② ～悩める学校現場、教師の苦労を体験から探る～ 第13回：生徒指導の概念③ ～児童生徒のものの見方、考え方と集団の風土～ 第14回：生徒指導の概念④ ～自己決定の場を与えること、自己存在感を与えることとは～ 第15回：生徒指導の概念⑤ ～世界各国の教育の目標から生徒指導を考える～ 定期試験			
テキスト 「生徒指導提要」（文部科学省）			
参考書・参考資料等 「生徒指導入門」（明治図書）、その都度講師が必要な資料を準備する			
学生に対する評価 講義ばかりでなく資料を用いたグループ討議やそれを共有する場面も取り入れるため、①学ぶ様子の直接観察、②レポート評価、③定期試験、の3観点で評価する			

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 松木 健一
			担当形態：単独
科 目	教職に関する科目（生徒指導及び教育相談に関する科目）		
各科目に含めることが 必要な事項	・教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業の到達目標及びテーマ 児童・生徒に深刻な問題として関わる事象が多発している昨今において、 教育相談の意義、教育相談を必要とする状況、基本的な知識や考え方等について理解する。			
授業の概要 児童・生徒を取り巻く社会問題等、時代と共に変化する状況の中で教育相談のもつ役割がどのように変化してきたかを理解する。さらに、教師として児童・生徒が抱えている問題に適切に対応できるための専門的な知識やカウンセリング等の理論や方法・技術を学び、個々の児童・生徒への教育支援としての教育相談について理解する。本授業は随時カウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の関係機関との連携を重視しながら進める。			
授業計画 第1回：学校における教育相談の概要説明 第2回：保護者向け教育相談の概要説明 第3回：教育相談の実例1（特別支援学級在籍の発達障害児） 第4回：教育相談の実例2（通常学級在籍の発達障害児） 第5回：教育相談の実例3（拒食等の心身障害児） 第6回：教育相談の実例4（進路に関わる相談・職業選択） 第7回：教育相談の実例5（進路に関わる相談・進学） 第8回：教育相談のロールプレイ1（紙面相談に応える：異性交際） 第9回：教育相談のロールプレイ2（紙面相談に応える：職業選択） 第10回：教育相談のロールプレイ3（紙面相談に応える：発達障害児を抱えた教師） 第11回：教育相談のロールプレイ4（紙面相談に応える：学生ボランティア） 第12回：教育相談のロールプレイ5（対面相談：学習支援） 第13回：教育相談のロールプレイ6（対面相談：障害受容） 第14回：教育相談のロールプレイ7（対面相談：家族関係） 第15回：教育相談と学校制度 定期試験：定期試験は行わずポートフォリオを作成（試験日には適応指導教室の見学を実施）			
テキスト 必要に応じて指定する			
参考書・参考資料等 学校教育相談（ミネルバ書房）			
学生に対する評価 毎回参加した記録等を元にポートフォリオを作成し、その内容によって評価する。ポートフォリオの評価割合は、教育相談の概要把握 30%，ロールプレイの省察内容 50%，ポートフォリオ全体の構成 20%。			

シラバス：教職実践演習（養護教諭）		単位数：2 単位		担当教員名：森 透、南 桂子、五十嵐 利恵	
科 目	教職に関する科目（教職実践演習）				
履修時期	4 年次後期	履修履歴の把握	○	学校現場の意見聴取	○
受講者数 20人					
教員の連携・協力体制					
学生の4年間の学びの集大成を目指す授業のために、学生の教育に関係した教員が協働して責任を持って支援し、学生自身が4年間の学びを深く省察できる体制を保障すること。					
授業の到達目標及びテーマ					
養護教諭を目指す学生は、教職科目の授業及び養護の専門科目や養護実習を体験して得た学習内容、またこれまで学んだ知識や理論を駆使し統合し「さらに学びなおす」ことにより、教育職一とりわけ養護教諭としての自覚や責任について考える。また、教育現場における養護教諭としての学校保健の重要性を認識し、さらに卒業後養護教諭になるための自らの課題を深く理解する。					
授業の概要					
「教職実践演習」は国が定めた新たな必修科目で、教師になる学生が4年生の時点で学部4年間の学びの集大成として、教師としての基本的な知識や理解、教職の専門性などについて省察する科目である。					
授業計画					
第1回：養護教諭に必要な「一般教育科目」の学びの意味を小グループで省察する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第2回：養護教諭に必要な「専門基礎科目」の学びの意味を小グループで省察する。第1回の「一般教育科目」との関連も視野に入れ、養護教諭の基礎・基本を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第3回：小グループで専門科目の学びの省察を行い、特に「基礎看護学総論」の省察を通して養護教諭としての専門性を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第4回：小グループで専門科目の学びの省察を行い、特に「領域別看護」の省察を通して養護教諭としての専門性を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第5回：小グループで専門科目の学びの省察を行い、特に「統合看護」の省察を通して養護教諭としての専門性を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第6回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「学校保健」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第7回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「養護概説」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第8回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「健康相談活動の理論及び方法」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第9回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「食品学」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第10回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「教職概論」「教育原理」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第11回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「学校経営論」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第12回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「教育課程論」「特別活動指導法」「教育方法論」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行うこと。＜小レポートの提出＞					
第13回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「道徳教育の研究」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行うこと。＜小レポートの提出＞					
第14回：小グループで養護科目の省察を行う。特に「生徒指導論」「教育相談」と「養護実習」の関係性を省察し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜小レポートの提出＞					
第15回：今までの省察のまとめを行い、「一般教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」と「養護科目」の関連性を理解し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行う。＜今までのまとめの中間レポートの提出＞					
第16回：養護教諭に関する文献研究を行い、自らの実践を対象化して意味づける（それまでの学びを踏まえて、小グループ					

プで養護教諭に関する文献・理論書等を検討して、自らの学びを意味づける) <小レポートの提出>

第17回: 前回の文献研究を踏まえて文献・理論書と自らの実践の関係を小レポートにまとめ、小グループで報告し省察する。 <小レポートの提出>

第18回: 前回の小グループでの省察を踏まえて、更に文献研究を進め、自らの実践の理論化・体系化を目指す。 <小レポートの提出>

第19回: 福井県内の諸学校における養護教諭の方々へのインタビューを行う (小グループで福井市内及び福井県内の養護教諭の方々へのインタビュー) <小レポートの提出>

第20回: 前回の養護教諭へのインタビューを踏まえて、今までの省察の全体のまとめを行い、「一般教育科目」「専門基礎科目」「専門科目」と「養護科目」の関連性を理解し、専門職としての養護教諭の総体を理解する。同時に履修カルテを活用した省察も行うこと) <小レポートの提出>

第21回: 今までの養護教諭に関する省察を踏まえて、養護教諭に関する文献・理論書を小グループで活用し、自らの「養護実習」の意味を対象化し省察する。 <小レポートの提出>

第22回: 前回の省察を踏まえて、<小レポート>を全体で共有し、別のグルーピングを行ない、各人の省察を様々なメンバーで議論し共有する。

第23回: 第19回で行った福井県内の諸学校における養護教諭の方々へのインタビューを再度行い、自分たちの実践と省察についてアドバイスをもらう。 <小レポートの提出>

第24回: 複数の養護教諭の方々に授業に招待し、ゲストティーチャーとして参加してもらう。小グループにアドバイスをしていただき、各グループでの省察に専門家としての意見や評価をいただく。 <小レポートの提出>

第25回: 今までの調査探究を踏まえて、本学の教員及び福井市内・福井県内の養護教諭によるシンポジウムを企画し、自ら参加して学ぶ① (小グループで探究してきたことを踏まえてシンポジウムを企画し、学生も自らシンポジストとして参加する) <小レポートの提出>

第26回: 前回のシンポジウムの省察を行い、提出した小レポートを小グループで交流し省察する。

第27回: 最終段階として、今まで学んできたことの集大成として各個人でまとめた<小レポート>の全体を「学習個人誌」としてまとめる。 <「学習個人誌」の提出>

第28回: 「学習個人誌」にまとめたものを小グループで報告し省察する。 <「学習個人誌」の提出>

第29回: 更に練り上げた「学習個人誌」を、別のグループ構成メンバーで報告し省察する。 <「学習個人誌」の提出>

第30回: 「学習個人誌」の最終発表会を全体場で複数の代表者が発表する。その後、小グループで全員が報告・省察する。様々な学生同士がお互いの「学習個人誌」を交流し省察することを通して、専門職としての養護教諭の役割や在り方を学ぶ。発表会には本学教員やインタビューした養護教諭等も可能な形で参加してもらう。 <小レポートの提出>

定期試験

テキスト

- * 秋田喜代美・佐藤学編著『新しい時代の教職入門』有斐閣、2015年改訂版
- * 田島一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二『やさしい教育原理』有斐閣、2011年
- * 三木とみ子編集代表『四訂 養護概説』ぎょうせい、2009
- * 大谷尚子・森田光子編著『養護教諭の行う健康相談』東山書房、2000
- * 尾花美恵子・栗田舞美・西川路由紀子『養護教諭のための教育実習マニュアル<第4版>』少年写真新聞社、2012

参考書・参考資料等

- * 福井大学教育地域科学部・教職実践演習 2014年度実施報告書『学びの専門職をめざして一教職課程の意味を問い直す学生たち 2014年度』全368頁ほか
- * 福井大学大学院教育学研究科学校改革実践研究コース編『看護専門職の実践力を育てる実習過程の事例研究一看護教育の省察的実践研究のアプローチ』(学校改革実践研究年報 2006 N01) 2007年3月
- * 福井県養護教諭研究協議会・研究誌『なかま』第1集～第51集(2016)

学生に対する評価

①レポートの提出状況 30%、②グループ討論への参加状況 30%、③最終課題レポートの提出状況 40%、以上の3点を総合的に判断する。